

# 平成30年度学校自己評価システムシート ( 県立大宮北特別支援学校 )

目指す学校像	児童、生徒一人一人が持てる力を最大限に発揮し、より自立的・主体的に活動し生活する力を育む学校
--------	--

重点目標	1 児童生徒一人一人が主体的に取り組む授業づくり 2 児童生徒一人一人の自立を促すキャリア教育の推進 3 特別支援教育の推進拠点として、信頼に応える学校づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					( 2 月 1 日 現 在 )		
年 度	目 標	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	○学校全体として、研修に対する教職員の意識は高く、「いろいろな工夫をした授業実践」に対しては保護者からも高い評価を得ている。 ○児童生徒数の増加により、1つの教室に複数の学級を配置していることから、児童生徒一人一人に応じた自立活動の重要性が更に高まっている。	①教育支援プランを踏まえ、児童生徒一人一人の実態把握に基づいた授業の実践	①児童生徒の実態や興味関心を引き出す教材教具の工夫や協働授業を充実させる。	①児童生徒が自分から取り組む「わかる・できる・楽しい」授業が実践できたか。	①保護者アンケートでは「工夫をした授業実践」が全体で一番高い評価を得た。また、教職員も「わかる・できる・楽しい授業実践」に対し、約7割が「よくできた」・「できた」と回答し、着実な実践が進んでいる。 ②支援プランの作成や活用についても保護者の満足度は高く、それらを踏まえた自立活動が着実に実践されている。	A	①来年度についても、児童生徒数は増加する見込みであり、限られた教育環境の中で、教職員個々の更なる工夫が求められる。引き出しを増やすためにも、より実践的な研修と教職員の学び合いを充実させていく必要がある。 ②児童生徒の実態が、重度、多様化している中、自立活動部との協働授業や専門家の有効活用について連携を深める必要がある。
		②個々の教育課題を踏まえた「自立活動」の着実な実践	②個々の教育課題に対して自立活動部やST、OTをはじめとする専門家と連携し、具体的な目標や方策、指導内容を設定する。	②教育支援プランが指導、支援に生かされ、個に応じた指導・支援が実施できたか。 ※保護者・教員アンケート及び個別面談での満足度の確認			
2	○平成29、30の2か年において研究テーマを「将来の社会生活を見据え、一人一人の自立を目指す児童生徒の育成」と定め、学部毎に研究を進めているが、学部間の系統性についても検討を進める必要がある。 ○保護者アンケートにおいては、進路に関する意見・要望が多く寄せられており、生徒の特性を踏まえた進路指導を更に充実させる必要がある。	①自立に向けて「つけさせたい力」を明確にし、学部間の連携を深める。	①学部交流や他学部の授業参観を計画的に実施し、系統性やつながりのある指導・支援について検討を進める。	①学部交流や授業見学を通して「つけさせたい力」について職員間の共通理解が図られたか。	①学部ごとに、サブテーマを定め、年間9回の学部研修会を計画的に実施し、「つけさせたい力」について共通理解を図ることができた。 ①学部間交流も約1/4の職員が他学部を経験し、学部間の系統性について考える機会となった。	B	①2年間の学部研修を通して、発達や学部段階におけるキャリア教育について検討を進めることができた。しかし、小学部から中学部、中学部から高等部、高等部から社会へと切れ目のないキャリア教育の在り方については更に検討を進めていく必要がある。
		②進路指導年間計画を基盤とした関係機関や保護者と連携した進路指導の充実	②「進路」に関する積極的な情報の発信や共有化を図り、生徒一人一人の適性を踏まえた進路指導を充実させる。	②進路に関する適切かつ積極的な情報提供が実施できたか。 ②生徒・保護者と合意形成が図られた産業現場等の実習が実施できたか。 ※保護者・職員アンケートの活用			
3	○「交流及び共同学習」は、関係機関との連携やボランティアの養成・活用等により、年々、充実してきている。 ○地域・保護者からの支援の要請が増加しており、地域における特別支援教育の推進拠点としての役割を充実させていく必要がある。	①インクルーシブ教育の推進に向けた「交流及び共同学習」の充実	①保護者や地域のニーズを踏まえて、計画的に「交流及び共同学習」を進める。	①関係校とも連携を図りながら、子どもの実態に応じた「交流及び共同学習」が着実に実施できたか。	①「交流及び共同学習」については、関係校とも連携を図りながら、46名が実施した。また、交流の成果を踏まえ3名の児童が地元の小学校へ転学し、連続性のある多様な学びが実現されている。	A	①「交流及び共同学習」は、双方にとって効果がある取り組みとなるよう、引き続き、関係校との連携を図っていく必要がある。 ②昨年度より、地域内の中学校、高校、特別支援学校の連携強化に向けて、「地域連絡会」を発足したが、今年度は参加校も増え、活発な議論がなされた。引き続き、連携に努めていく。
		②地域における特別支援教育の推進拠点としてのセンター的機能の充実	②コーディネーターを中心とする相談支援、地域支援(地域連絡会、研修会、ボランティア養成講座等)の充実を図る。	②さいたま市とも連携し、地域や保護者のニーズに応じて適切な支援が実施できたか。 ※該当者・職員アンケート等の活用			

学校関係者評価	実施日 平成31年2月19日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけでは無理なのは承知しているが、教育環境の改善に力を入れてほしい。</li> <li>・できることが増えているので、大変感謝している。</li> <li>・充実した授業実践がうかがえる。これからも、さらなる専門性の向上に努め、よりよい授業実践をお願いしたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路について、保護者アンケートで充実した評価がもらえるように努力してほしい。</li> <li>・学部間の交流を大切にしているのはよくうかがえる。本校で分校の卒業生の話を聞く会など、本校と分校の連携をさらに充実させるとよい。</li> <li>・分校の進路指導と本校の進路指導を連動させる試みをしてほしい。</li> <li>・保護者としては、事業所の生の声を聴きたいので、学校で保護向け事業所説明会を開催してほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での特学の設置率の向上に伴い、地元でも学べる機会が増えている。したがって、地元との連携を大切にしてほしい。</li> </ul>

